

自蹊庵便り

令和六年 師走

臨時号

くチャリティー茶会に思いを寄せてく

事にございました。

去る十二月六日く八日の三日間、大原若水庵にてチャリティー茶会が催されました。

茶道具の取り合わせ、茶席の飾り、花の挿しよう一つも美しく、時間の厳しいなかで、誠によくここまで準備できたもの…と、

に続く大災に復興の目処もたない状況下に置かれている現状に仲間のできる応援を…と自主的に開催されたものです。三日間で延べ百名ほどの方々が御来庵くださり一体感が流れるような空間で終始楽しまれたのではなからうか…と、想像にかたくなく、

その前日まで一週間ほど三日間の夜咄の茶事を含め厳しいスケジュールの間をぬいながら、よくよくあれほどの準備ができたもの…と。私にはただ六日の帰りがけに少しミニ講演を三十分ほどお願いできますか…との依頼があつたのみですので、準備途上のことは何一つ伝わっておりませんでした。

若水庵ならではの場所との調和のとれた一席一席、どの席からもぬくもりと日頃の美意識の鍛錬のよくよく生かされたお席が用意されていて、楽しさが伝わりくるものにごさいました。そこには茶の湯の理想郷ともいえる、日頃お茶の嗜みのない方でも軽く楽しめるぬくもり溢れたお席でありながら、一見有り合わせの道具立てにも見え

後日の嬉しい報告にございました。皆様お一人お一人の人間力の結集を垣間見させて頂き、令和六年の元日に能登半島のあの大地震がらの幕開け、その後のあちらこちらでの豪雨と大災続きの年でありましたが、今年の締めめに、このような掛け替えの無き尊い心重ねで終えることができま

まさにその通りで、こちらも目一杯のスケジュールにて帰りの荷を車に積み、心は既に千葉にあり、帰りがけに寄らせて頂いたのですが、軽い気持ちで立ち寄ってみて、少なからぬ感動を覚えました。それは何か、何に感動し、心を動かされたかと申しますと、四席ほど設えてある茶席のどれもが楽しさが伝わりくる装いを漂わせており、見

そうながら、しっかりとストーリー性も兼ね備えた力量も発揮されており、時間の厳しい中での準備ながら、一人一人裏方さん達が楽しみながら整えたであろうと容易に想像でき、これほど頼もしく思ったことにごさいません。

このチャリティー茶会の試みは、京都教室のお仲間に珠洲のYさんがおられ、大災

鶴の茶寮亭主

半澤 鶴子

追伸

私はこのチャリティーには我が事の多忙につき、何一つ協力できずに終わってしまったことに、一抹の恥ずかしさを覚えました。

抹茶や干菓子だけでも充分に差し入れしてあげる立場であったこと。強いては美味な無農薬の米糠のパウンドケーキなども作る時間をとってさしあげたかった。等々 後から悔いること多々ございました。

ミニ講演においても、帰りを急ぐ心のよぎりで三十分ほどでは、未消化に終わってしまったこと、自然の豊かな恵みとの背中合わせに大災国であり、その上に培われた民族性の優しさと協同体としての必然性を盛り込みたかったのですが…。

スタッフのお一人お一人の誠実さから生まれたこの度のチャリティーの内容を思うと、心から皆様を誇りに思います。私も皆様に負けぬよう一段と精進の年を重ねていこうと強く思った年の瀬にございました。

今年も沢山の真心を皆様から賜った一年にございました。更なる飛躍と稔り多き年となりますよう。皆様と共に。

合掌